



ラリー・ウィリアムズのパートナー なりた・ひろゆきと

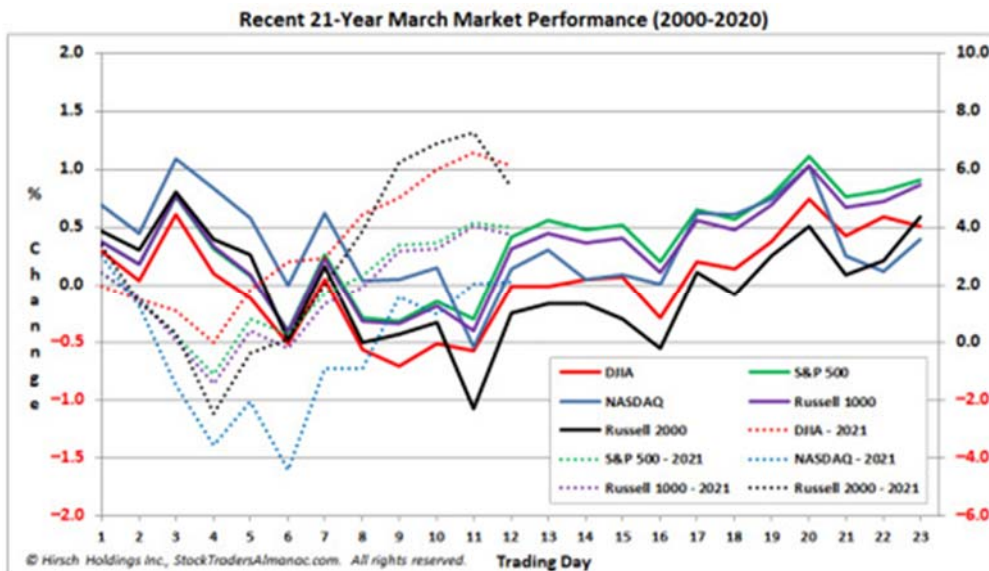
米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ ジェフリー・A・ハーシュによる
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

2021年3月17日

Above Average March Gains Could Fade as End-of-Q1 Approaches
第1四半期末に近づくにつれ、平均を上回る3月の上げは下落へ



直近 21 年間の 3 月パフォーマンス (2000~2020)

今年の3月は全面的に堅調にスタートしたが、2月下旬の弱さからの反転も束の間、その後の3取引日は下落が続いた。昨日のひけ時点では、ダウ、S&P500、ナスダック、ラッセル 1000、2000 のいずれも3月としてはプラスとなっている。もっとも上げているのはダウで+6.12%の上昇。2番目に良いのはラッセル 2000 の +5.38%の上昇。ナスダックはこれまでのところ、わずかに+2.12%の上昇で、引き続き遅れをとっている。上のチャートは、2021年3月(右縦軸にプロットされた点線)と最近21年間の2000年から2020年までの典型的な3月の季節パターン(左縦軸を用いた実線)を比較している。

今年のジグザグは、最近の21年間のパターンとは若干異なり、過去の上昇が通常3取引日目頃まで続いたのに対し、今年の上昇はわずか1日だけ。しかし、いくつかの類似点がある。強さの後には弱さが続き、今年は今半ばの強さが早くも訪れたようだ。歴史的に見ても、今半ば以降は、SQや第1四半期末の売り圧力が市場を圧迫するため、マーケットは萎縮する傾向にある。特に、現在の上昇幅が全月の過去の平均的なパフォーマンスと比較してみると、今月後半に多少の弱さが見られても不思議ではない。ダウ、S&P500、ラッセル 2000 の最近の新高値は心強いが、ナスダックは出遅れている。ハイテク株の押し上げとナスダックの新高値がなければ、現在の上げを続けるのは難しくなる。